フェスタ 国立大学2026

3つの大学がつながり、地域の未来をともに創る

弘前大学 × 三重大学 × 島根大学

国立大学未来共創シンポジウム

地域レジリエンスを支える主体形成と共創

―地域づくりのための連携構築に向けて―



人口減少や地域課題に直面する中、持続可能な地域社会を拓く「地域レジリエンス」が求められています。本シンポジウムでは、弘前大学・三重大学・島根大学の協働と国立大学協会の支援のもと、大学・自治体・住民・学生がともに集い、地域づくりのための主体をいかにして形成するか、また、そうした主体同士の連携をどのように構築するかについて議論します。

また、今回の企画に学生が参画することを通じて、地域の担い手として、ともに成長することを目指し、新たな協働の第一歩を踏み出します。ぜひご参加ください。

【第1部】
三大学からの地域協働の研究・実践報告

【第2部】
ショート報告＋パネルディスカッション
地域レジリエンスを支える主体形成と多主体間連携の構築に向けて

【第3部】
参加型対話セッション
参加者（住民・自治体・研究者・支援機関・学生）による混合グループ討議

日時
2026年12月12日（土）
13時00分～17時00分

会場
島根大学松江キャンパス 大学ホール
（対面＋オンライン配信）

参加無料

申込不要

オンライン配信
https://unnancity.tv/261212

配信協力：うんなんシティTV

問い合わせ先
島根大学法文学部・山陰研究センター
0852-32-9833　admin-src@soc.shimane-u.ac.jp

主催　島根大学法文学部・山陰研究センター
共催　弘前大学人文社会科学部・地域未来創生センター／三重大学人文学部・三重の文化と社会研究センター／一般社団法人・国立大学協会
後援　島根県

PROGRAM
プログラム

- 13:00～13:10　開会挨拶　島根大学長 大谷 浩
- 13:10～13:15　趣旨説明　主管機関（島根大学法文学部・山陰研究センター）
- 13:15～14:30　**【第1部】三大学からの地域協働の研究・実践報告**

博物館活動を通じた地域文化の再発見とその継承に向けた取り組み
―青森県野辺地町における食経験調査を事例に―
葉山　茂　教授（弘前大学人文社会科学部・地域未来創生センター副センター長）

写真を地域に返す ―海女と漁村の記憶を未来へつなぐ試み―
菅沼　文乃　准教授（三重大学人文学部・海女研究センター副センター長）

江戸時代の出雲、文芸でつながる人々 ―出雲市大社町・手錢家20年の調査から見えてきたこと―
田中　則雄　教授（島根大学法文学部・山陰研究センター企画研究員）

- 14:30～14:40　休　憩
- 14:40～16:10　**【第2部】ショート報告＋パネルディスカッション**

「地域レジリエンスを支える主体形成と多主体間連携の構築に向けて」

ショート報告登壇者:
若槻　真治　氏（石見銀山研究会代表、戦後史会議・松江代表世話人、元・島根県いわみ芸術劇場グラントワ館長）
安田　和司　氏（島根県中山間地域研究センター　専門研究員）
森田　一平　氏（株式会社 過疎　代表取締役）

コメンテーター:
羽渕　一代　氏（弘前大学人文社会科学部　学部長）
豊福　裕二　氏（三重大学人文学部　学部長）
浅田健太朗　氏（島根大学法文学部　学部長）

- 16:10～16:50　**【第3部】参加型対話セッション**

参加者（住民・自治体・研究者・支援機関・学生）による混合グループ討議

- 16:50～17:00　閉会・総括

国大協シンポジウム第1部のラインナップ

弘前大学　葉山 茂
（人文社会科学部教授・地域未来創生センター副センター長）

博物館活動を通じた地域文化の再発見とその継承に向けた取り組み
―青森県野辺地町における食経験調査を事例に―

過去3年間、報告者は野辺地町郷土資料館ともに青森県野辺地町における食の経験を調査し、近接する海浜部・町場・農村部にそれぞれ異なる食生活があったことを明らかにしてきました。しかし現在、町場の食が郷土料理に昇華する一方、海浜部や農村部の食は忘れられつつあります。本報告では、それらの記憶を改めて集め、地域の多様な成り立ちを検討し、地域の子どもたちに教育キットを提供する途上の試みを紹介します。

三重大学　菅沼 文乃
（人文学部准教授・海女研究センター副センター長）

写真を地域に返す
―海女と漁村の記憶を未来へつなぐ試み―

三重大学海女研究センターでは、2018年より海の博物館が所蔵する海女や漁村の暮らしに関する写真等をデジタル化し、撮影場所や年代などの情報を加える取り組みを進めています。また、地域で写真展を開催し、来場者から寄せられた情報や記憶を資料に蓄積しています。本報告では、博物館・大学・地域の人々が写真を介して協働し、鳥羽・志摩の暮らしの変化を記録するとともに、地域の記憶を次世代へ伝える実践とその可能性を紹介します。

島根大学　田中 則雄
（法文学部教授・山陰研究センター企画研究員）

江戸時代の出雲、文芸でつながる人々
―出雲市大社町・手錢家20年の調査から見えてきたこと―

島根県出雲市大社町の手錢（てぜん）家には、江戸時代の当主らが和歌や俳諧を学びながら蓄積した書物が大量に伝わっています。これらを、山陰研究センターのプロジェクトで20年にわたり調査したところ、地域の人々が共に文芸を学び、創作に励んでいた姿が見えてきました。目標を共有しつつ活動する中で人間相互の理解を深めていった様相は、現代における地域社会のあり方を考えるうえで示唆を与えてくれるものと思われます。

参加無料　申込不要　オンライン配信URL https://unnancity.tv/261212

弘前大学 × 三重大学 × 島根大学

問い合わせ先
島根大学法文学部・山陰研究センター
電話：0852-32-9833
メール：admin-src@soc.shimane-u.ac.jp

3つの大学がつながり、地域の未来をともに創る